

平成11年度第3回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：1999年4月3日（土）13：30～18：10

場所：愛知県中小企業センター7階6会議室

出席者：松本会長、郷次期会長、七田・川戸両副会長、桐野編集実行委員長、新田北海道支部長、太和田九州支部長、市川平成11年年会実行委員長、富永平成11年年会実行委員、大木平成12年年会実行委員長、木寺・桑島・豊島・田之倉・藤吉・中村・八田・由良各委員、林会長室秘書、永田学会事務室秘書

1. 賞・助成金推薦委員会報告（川戸）

資料：報1

・第40回藤原賞候補者の推薦について推薦委員による調査の結果、可15票、否0票で柳田敏雄氏を本学会から候補者として推薦されたことが報告された。

・山口科学振興財団研究援助候補者の推薦について推薦委員による調査の結果、可13票、否1票で樋口芳樹氏を本学会から候補者として推薦されたことが報告された。

・また、次の財団選考結果6件が報告された。

1998年度朝日賞—柳田敏雄氏（阪大・医）受賞。第6回日産科学賞—石島秋彦氏（名大・工）受賞。平成10年度島津賞—伏見譲氏（埼玉大・工）否採択。第25回日産学術研究助成（一般）—豊島近氏（東大・分子細胞生物）、芝清隆氏（癌研究所・細胞生物）いずれも否採択。（奨励）海野雅司氏（東北大・反応化学研）、清水敏之氏（奈良先端科学技術大）、夏目季代久氏（九工大・情報工学）、日比野政裕氏（名大・工学）いずれも否採択。第39回東レ科学技術賞—平塚寿章氏（旭川医科大・医）否採択。第39回東レ科学技術研究助成—花井亮氏（立教大・理）、石島秋彦氏（名大・工）いずれも否採択。

2. 日本光生物学協会委員会報告（松本）

資料：報2

・日本光生物学協会の津田基之氏会長による報告書が配布され、松本会長より報告がされた。日本光生物学協会（津田基之氏会長）が次回播磨で講演会を行う。

・次期会長（2001年）は日本化学会の佐々木政子氏であることが報告された。

3. 生物科学学会連合第2回連絡会議報告（川戸）

資料：報3

・平成11年3月25日学士会分館にて上記連絡会議が開催され、川戸副会長よりその報告がされた。

・生物学関連の各学会間の連絡組織として設立された生物科学学会連合は

平成11年5月8日に承認される団体であり、参加学会である本学会は会費として5000円を支払うことが報告された。

・生物科学学会連合は丸山工作氏の世話により、生物科学学会の緩やかな連合体を作ることが趣旨であることが報告された。今回で2回目の開催となる会議では、以下のことが報告・審議された；1.科研費の執行機関の変更・科研費不採択の公開方法の審議について、2.名誉教授用の fellowship の発足について、3.理科の先生の資格について、4.将来ポストクがあふれることについて、5.助手のポストが減っていることについて、6.医学部の入試で学生が生物学を選択させるようにする方策について、7.国家公務員試験が変更される問題について、8.科研費の細目の変更される問題について、9.国立研究所のエイジェンシー化について。

4. 科学研究費補助金審査委員候補者の推薦先について （郷通）資料：報4

- ・どの学会から科研費審査委員が選ばれているかを資料により説明がなされた。
- ・現在、第1段審査委員に12名（定員6名）、第2段で2名（定員1名）を日本学術会議に推薦することになっている。第2段審査員は分子生物学会と生物物理学会とが交互に出し、平成11・12年度は生物物理から出していることが報告された。
- ・科研費補助金の制度が変わってきており、平成11年度から基盤研究・萌芽的研究・奨励研究を文部省から学術振興会に移管することが決定されている。

5. 平成11年度年会準備状況 （市川：富永） 資料：開催要項

- ・会場の都合上、大型テントが設置できないため、対案としてサブ会場（理研）を作ることが報告された。
- ・シンポジウムに34件の応募があり、配布表のように12件が選ばれたことが報告された。また、ミニシンポをいくつか作ったことが報告された。選考過程は年会ホームページに掲載中。
- ・ポスターツアーを止めて、短い紹介（1講演あたり5分）を OHP（20台用意を用いて行うことになった。
- ・自由にセッションが作れるように OHP を用意した。
- ・オーラルプレゼンテーション（1件20分）をインターネット上で公募することが報告された（全部で20件程度）。
- ・富永年会実行委員より分類表の改変点の説明がなされた。基本的には講演の少ない分類を他の分類に融合させている。結果として名前が表れなくなった分類があるが、これまで通り発表は受け付ける。
- ・演題申込用紙におけるキーワードと分野別専門委員の推薦記入欄を変更して分かりやすくした。今までの申し込み用紙では、分野別専門委員リストに掲載の名前を

そのまま書いている場合が多い。分野別専門委員の推薦を誤解なく行うようにしたかった。

今まで用いていたキーワードリストから分野別専門委員名を削除したことが説明された。

- ・会場に恵まれ、会員からの要望である託児室を設ける事が報告された。ただし、場所・費用が大変である（保母さんが子供2人までで1時間で2000円）ことから、生物物理学会年会でこれから常に託児所を設置するわけではない。郷次期会長よりすでに託児所を設けている天文学会、水産学会、細胞生物学会の例があげられた。

6. 平成12年度年会準備状況 (大木)

- ・9月11日(月)～13日(水)に東北大学川内北キャンパスで行う。申込の方法(郵送・Email)および締め切りは4月開催の東北支部会で追って決定していくことが報告された。

- ・以下の予定で準備することが報告された；4月中旬に生協と打ち合わせをし、作業の詳細を決める。平成11年秋に交通機関・宿泊の準備をおこなう。平成12年の2月に開催要領を作成し、平成12年4月に会場の正式予約を行う。

- ・特別な企画を行うならば、会場は国際センターで行うことが可能である。

- ・年会担当者と細かいところを随時決めていくことが報告された。

7. 平成11年分野別専門委員の決定 (七田) 資料：報7

- ・前回運営委員会で承認された分野別専門委員のうち、学会員ではない人が専門委員になっていることがわかったので、対案をたて、すでに決定通知を新専門委員宛発

送済みであることが報告された。対案内容は次のよう。

5.5 (生態学) 山村則男氏から難波利幸氏に変更。

1.7.3 (輸送体ポンプ) 伊藤維明氏から平田肇氏に変更。

3.17 (感染) を削除。

5.1.2 (集団遺伝学) 館田英典氏からト部格氏に変更。

以上の変更内容が事後承認された。

- ・郷次期会長より元会員の方が変更された専門委員にいたことが指摘され、来年の専門委員の決定の際には、そのような方には再び会員になってもらうことをすすめることが了解された。

8. 第4回 International Conference on Biological Physics (ICBP2001)に関して

(松本・木寺) 資料：報8及び報8(1)

2001年7月30日から8月3日まで京都で催される ICBP2001 について以下のことが報告された。

- ・会議和文名について、松本会長より配布された資料をもとに Biological Physics は「生物物理学」と訳されるよう変更となったことが説明・報告された。(変更前「生体物理学」)
- ・桑島委員より国際生物物理学会との関係が質問され、まったく別の団体であることが示された。
- ・組織委員会の拡充のための委員は4月2日に日本学術会議に推薦されたことが木寺委員より報告された。ただし専門委員(20名)は確定していない。5月8日東京にて開催の運営委員会で実質的に動き出す。
- ・生物物理学会から50万円の寄付を行うことはすでに本運営委員会で承認されているが、口座未開設のため現在のところ未送金となっている。開設次第送金予定。
- ・国際諮問委員に加えたい方を Email で木寺委員へ提案するように要請がなされた。
- ・それぞれの部の下に専門委員(公式文書には名前が載らない方)が必要であることが報告された。
- ・郷次期会長より委員の推薦は本運営委員会の議題であることが指摘され、松本会長により本報告8は議題に変更された。委員の推薦に関して賛成多数であることから承認された。

9. 自然退会者の復活処理について (川戸)

- ・退会者リストから前回運営委員会で名前があがった9名に松本会長より電話をかけてもらい、継続が確認されたことが報告された。文書による連絡は効力はなく、会長または副会長による電話が効果的であること、及び会費自動引き落としのアナウンスを会誌に掲載したことが報告された。

10. 会誌38巻6号再版とその負担金について(松本、桐野)

- ・会誌38巻6号の1/4ページの記事が切れており、39巻1号とともに再版した38巻6号が送りなおされたことが桐野編集委員長より報告された。
- ・上記のミスがフロッピーディスク形式で確認した後に、出版社が図をいじったために発生したことが報告された。
- ・再版に要した費用(106万4千円)をパートナーシップとしての今後を考え、リアライズ社と半々に負担することが松本会長より提案された。
- ・半額負担をすることは責任がはっきりしなくなることが多くの委員から指摘され、昨年の予稿集の場合を考えると再度のミスという印象が残る。リアライズ社との信頼関係、本学会財政状況を考慮し、日本生物物理学会は10%~20%程度を負担

することになった。

- ・リアライズ社側のシステムの問題であることが中村・藤吉各委員より指摘され、リアライズ社より改善点の報告書を提出してもらうことになった。

1 1. リアライズ社再契約について (七田・桐野)

- ・3年間（平成11年4月1日から14年3月31日まで）の再契約を締結することが報告された。現在契約の最終チェックを松本会長が行っている最中である。
- ・バックナンバーの倉庫代は、冊子を処分してしまったら請求されないことが報告された。会誌のバックナンバーは日本学会事務センターで保管されており、リアライズ社の保管分は余分であることを確認したあとで、本学会誌も図書館、学会などに寄贈し在庫を減らす意向が確認された。
- ・リアライズ社の事務費とは何か（契約書のどれに対応するのか）の質問が中村委員よりあり、契約取り交わし前の確認事項となった。
- ・学会誌をコート紙にした場合、1号あたり2から3万円の増加ですむことより、今後全号をコート紙で印刷することが提案された。

1 2. 平成11年度電子図書館サービスの著作権料について (市川)

- ・表示は5円、印刷は10円で平成10年度と同額にしたことが報告された。
- ・著作権料を徴収するようになってから、閲覧人数が7000人から1500人になったことが桐野編集委員長より報告された。
- ・バックナンバーは存在はするが、画像データのため検索ができないことが報告された。

1 3. 日本学術会議への団体登録に関する説明会報告（川戸）資料；報13

- ・登録申請（更新）を5月31日までに行う必要があることが報告された。
- ・2月15日までに会員、2月21日までに推薦人を決定する必要があることが報告された。
- ・郷次期会長より議題8と関連することがコメントされた

議題

1. 平成10年度決算報告（案）の承認 (中村) 資料：議1

平成10年1月1日～12月31日の学会財政活動の決算報告（案）が審議され承認

された。

- ・収入について

広告収入、年会による収入、業務収入が予算を上回った。

- ・支出について

より完全な名簿を発刊したため、費用がかさんだが、名簿の広告収入で十分まかなえた。

- ・まとめ

収入の方がわずかに多いが、余裕があるわけではないこと示された。毎年決まった企画は難しいが単発の企画は可能である。

2. 編集実行委員長補佐との契約について (桐野) 議2

運営委員会にて編集実行委員長補佐として採用が決定している青山聖子さん（Natureの最初の日本語訳をつくっている方）との契約書（案）が提出され、了承された。

1号あたり10万円。

3. 会誌オンライン化について (七田(栗原代理)・桐野) 資料：議3

- ・2月22日御茶ノ水大学にて開催された学術情報センター主催の説明会に栗原委員が出席し、その報告が七田副会長よりあった。

- ・2月23日 NTT 麻布セミナーハウスにて開催された科学技術庁主催の説明会に桐野編集実行委員長が出席し、その報告があった。

- ・JST との共同開発で進められることがわかった。これからの日程説明が資料をもとに行われた。

- ・松本会長より学会誌をオンラインで発行すべきかどうか疑問が提示された。桐野編集実行委員長よりリアライズ社に対応してもらいながら、科技庁のメニュー形式を利用してオンライン化したい意向が示された。

- ・中村委員より紙による出版よりも安くなるのではないかと疑問が提示され、桐野編集実行委員長よりリアライズ社に払うお金がなくなれば安くすることができるが示された。

- ・七田副会長よりオンライン化した際にリアライズ社の位置付けはどうなるのか疑問が提示され、桐野編集実行委員長より体制はむしろ運営委員会で決めてもらえばよいと回答があった。

- ・桑島・木寺両委員より冊子体はなくなるのか疑問が示され、桐野編集実行委員長より各種のジャーナルの実例が示された。どのようにすべきかははっきりしていない。

- ・中村委員より英文学会誌をオンラインでのみ発行するのはよいのではないかと提

案があった。

- ・郷次期会長より nacsis に英文アブストラクトを掲載することが以前の運営委員会で決まっていることがコメントされ、それとの関係に注意すべきであることが示された。

- ・松本会長より運営委員会としてはオンライン化の動きをフォローするように提案があった。

- ・会誌オンライン化を運営委員会で決定した際には編集実行委員会に運営を委託し、編集委員会としては富永氏が中心になってオンライン化に対応することが桐野編集実行委員長より示された。

- ・中村委員よりリアライズ社との契約においてオンライン化への移行期は負担が増えるため、覚書が必要になることが示され、桐野編集委員長が了解した。

4. 委員候補者推薦方法について (七田)

例年会誌2月号に掲載される委員候補者の会員からの推薦において、自著が必要な経緯が報告され、これからも自著を残していくことが承認された。

5. 平成12・13年度委員候補者補充の件 (八田) 資料：議5

- ・3月31日締切の正会員の推薦による委員候補者選挙で3人以上の推薦が合った8名が報告された。さらに会長、次期会長、運営委員から推薦を募り、候補者の補充を行う事が承認された。4月16日までに郵送により回収し、4月19日開票。約120人のリストを作成する。

6. 選挙要項(案) (八田) 資料：議6

会誌6月号に掲載する平成12・13年度委員および科研費一段審査委員候補者の各選挙要項の文面が提出され了承された。

- ・学会委員の選挙について説明がなされた。また科研費委員の選挙について、6名の科研費の一段審査委員のうち2名は継続であるので、残り4名の2倍の8名の候補者を日本学術会議に推薦する必要があることが説明された。これは正会員による選挙で行う。

- ・会則に“科研費一段審査委員は正会員による選挙”を加えるべきであることが提案され、承認された。

- ・附随事項が多いため、それ以外の文章は変更しないことになった。

7. 学会組織について (市川)

- ・分野別専門委員と学会委員を同一にすることが提案された。また選挙がしやすい

ようにテクニカルな部分を改良すべきことが提案された。オーラルとポスターを区別するため、および英文誌を作るためにはエディトリアル・ボードが必要であることが提案された。

- ・松本会長より1日日程をとってこのことを議論することが提案されたが、この問題はもっと時間がかかることであるとみなされた。

- ・郷次期会長より委員の問題は確かにあるが、選挙は結構活発に行われており、かなりの得票がないと委員になれないことがコメントされた。また、キーワードと専門委員のテクニカルな問題と本質的な問題とを一緒にするのはよくないことが示された。

- ・中村委員より委員のアンケートが必要であることが示された。

8. 日本学術会議第18期会員推薦人について (郷)

- ・郷次期会長より生物物理学会が学術会議に会員を推薦できない学会であること、および前回は物理学会と分子生物学会に推薦人をおくり、それぞれの研連を通して推薦を行ったことが説明された。前回は物理学研連に対しては伏見譲氏を推薦人として和田昭允氏を会員として推薦した。また分子生物学研連に対しては郷通子氏を推薦人として堀田凱樹氏を会員として推薦した。生物物理としては今年度、どの研連において誰を推薦人として、誰を会員として推薦するかを決める必要があることが説明された。次回運営委員会において決定方向で松本会長より提案されることとなった。

9. 生物物理学会会誌の特集記事(谷口シンポジウム終了記念)について (郷)

資料：議9

- ・郷次期会長より、谷口シンポジウムが終わるにあたり、学会誌に特集は組めないか提案がなされた。今までにのべ数百人が関与しているシンポジウムであるから、学会誌に特集が組めるであろうこと、石渡会員(次期編集委員長)と個人的に話しこと、および谷口財団は特集を組むことを歓迎していることが報告された。特集について編集実行委員会で検討することとなった。

10. 生物物理学会事務局について (松本)

松本会長より、平成11年度も9月までは事務局を引き続き名古屋大学宝谷委員の研究室におき、永田現事務室秘書が引き続きが秘書をすることが報告された。